



熊本再春医療センター医療連携室だより

再春

KUMAMOTO SAISHUN MEDICAL CENTER



令和元年 第2号

発行所：熊本県合志市須屋2659番地
熊本再春医療センター
編集：医療連携室

熊本再春医療センターホームページ <https://saisyunso.hosp.go.jp/>

希少な蝶オオルリシジミ ～阿蘇の草原に舞う～



当院入院中のI様から最新作のCGを戴きました。I様、いつも大変有難うございます。
オオルリシジミは、ハネの形がシジミ貝に似ていることからこの名前がつけました。
絶滅危惧1B類、熊本県指定の希少野生動植物です。

病院の理念

わたしたちは
患者さまひとりひとりの人権を尊重し
思いやりの心を持って
安心と信頼の医療を
提供します

病院運営の基本方針

1. 患者さま中心の医療
2. 専門知識及び技術の向上
3. チーム医療の推進
4. 地域医療連携の推進と地域への貢献
5. 経営基盤の安定

Contents

1. 新年のご挨拶 2
2. 新本館棟内覧会・祝賀会報告 3
3. 病院建替え工事(Ⅱ期工事)完成報告 4
4. 健康フェスティバル報告 5
5. 病棟・部門紹介【8階病棟】 6
6. 開放型病院登録医紹介【よしもと小児科】 6
7. 病棟・部門紹介【放射線科】 7
8. 開放型病院登録医紹介【西山医院】 7
9. 国立病院総合医学会受賞報告 8～9
10. 人工関節センター立ち上げのお知らせ 10
11. 新任スタッフ紹介 10



新年のご挨拶

病院長 上山 秀嗣

新年明けましておめでとうございます。平素より皆様方には医療連携を始めとして多大なご協力、ご支援を頂きまして厚く御礼申し上げます。

昨年は4月に病院名称をこれまでの「熊本再春荘病院」から「熊本再春医療センター」に変更し、9月には8階建ての外来・一般病棟より成る新本館棟の運用を開始し、本当に慌ただしい1年間でした。そのような中で、皆様方のご協力により無事に業務を遂行できました事を感謝申し上げます。

ところで、昨年9月末日で循環器内科部長の三角 郁夫先生が新病院での運用が開始された熊本市市民病院に異動され、当院は10月から循環器内科の常勤医が不在となりました。三角先生には12年間にわたり当院循環器内科の診療を支えて頂きました。心臓カテーテル検査・治療、心臓リハビリテーション、および心臓超音波検査やホルター心電図の読影など数多くの業務に携わり、多くの外来・入院患者さんの診療に従事されました。また、筋ジストロフィー患者の心臓の病態を英文誌に多数報告され、臨床研究にも貢献されました。当院に循環器内科の常勤医が不在となる事は痛恨の極みですが、三角先生の今後のご発展を祈念したいと思います。尚、来年度の循環器内科常勤医

の獲得に向けて鋭意努力しているところです。

本年の予定ですが、2月末には旧東西病棟の管理棟への修復工事が終了し、3月初めに移転します。9月末には旧管理棟の解体、および駐車場整備を含めた全ての建替え工事が完了し、グランドオープンを迎える予定です。また、3月7日(土)には当院主催で第42回九州地区重症心身障害研究会を開催いたします。会場は「熊本市市民会館 シアーズホーム夢ホール」で行いますので、多くの皆様方の参加をお待ちしています。

更に来年度は、4月に2年毎の診療報酬改定がありますし、パートタイム・有期雇用労働法の施行、地域医療構想・働き方改革への対応、経営改革の推進といった困難な問題が山積しています。

厚生労働省が昨年9月に「再編統合の議論が必要な公的医療機関」のリストを公表しましたが、幸い当院はそのリストに含まれませんでした。しかしながら、今後病院は生き残りをかけた再編統合が始まると思います。体力をつけて臨まないと飲み込まれてしまいますので、病院スタッフ一同『ワンチーム』で頑張りたいと思っていますので、今後ともご支援の程何卒よろしくお願い申し上げます。

新本館棟内覧会、祝賀会について

副院長 緒方 宏臣

平成 27 年から始まった新本館棟建設も 1 期工事、2 期工事と無事終了し、令和元年 6 月末に完成引き渡しとなり、7 月 20 日（土）完成記念式典・内覧会が行われました。

新本館棟ロビーにて記念式典が執り行われ、上山院長の挨拶に始まり、合志市長 荒木義行様、国立病院機構本部副理事長 古川夏樹様にご祝辞を賜りました。その後、上山院長、荒木市長、古川副理事長、当院名誉院長の杉本峯晴先生、今村重洋先生、米村憲輔先生、の 6 名によりテープカットが行われました。

記念式典に引き続いて、新本館棟の内覧会を開催しました。当日は朝から雨が降る天気でしたが、次第に雨も止み、8 階病棟からのすばらしい眺望を見ていただくことができました。また豪華な特別室やダブルコリダーとなり導線がよくなった病棟、広く取られた病室を見学していただきました。2 階では広くきれいになった手術室、患者さんの歩行訓練ができる屋外庭園を備えたりハビリテーション室、また 1 階では放射線科や検査科、薬剤科、診察室が増えた外来、地域医療連携室などを見学して頂きました。内覧会には、地域の連携病院や行政、支援学校、OB や OG など沢山の方に来ていただきましたが、皆さんから「きれいになりましたね」、「楽しみですですね」と多くの祝福の声をいただきました。

内覧会の後は引き続き、熊本ホテルキャッスルにおいて、新本館棟完成記念祝賀会が開催されました。上山院長の挨拶の後、菊池郡市医師会長 柴田堅一郎先生、菊池保健所長 木脇弘二先生からご祝辞を賜りました。上山院長、柴田先生、木脇先生、名誉院長の杉本先生、今村先生、米村先生、坂本統括診療部長、藤丸看護部長の 8 名による鏡開きに引き続き、米村先生によるご発声で乾杯となりました。新本館棟の紹介 DVD 上映やプロのヴァイオリニストによる演奏もあり、盛大に執り行われました。



病院建替え工事（Ⅱ期工事）完了

企画課長 橋本 和明

新本館棟の工事の進捗状況について、前号では外壁工事が完了し、内部の壁、床、天井の工事を行っているところまでお知らせしておりましたが、その後2ヶ月で工事は急ピッチに進み、令和元年6月に新本館棟が完成いたしました。

まずは前回より完成、移転までの経過をお知らせします。

軽量鉄骨による壁、天井などにより仕切っていく工事が次々に進んでいくと仕上げのクロス貼りや床の長尺シート貼り、タイル貼りなどが行われました。その後、照明器具、空調設備、棚やカウンターなどの建具の取り付け、医療ガス設備の取り付けなどの工事が進み、それぞれの部屋が出来上がってきました。その後、各種機器類の試運転、テストなどを経て、6月上旬に工事が完了、6月19日から21日にかけて機構本部による完成検査が行われ、7月1日に建物の引き渡しとなりました。

引き渡し後に保健所による医療法の検査を受け医療機関としての使用許可ができました。そして7月20日の午後から外部関係者へのお披露目となる内覧会が行われ、その夕方より完成祝賀会が開かれました。

内覧会や祝賀会には機構本部、機構病院、行政機関、関係医療機関、病院OB、OGの方など多くの皆様にご出席いただき、盛大に開催することが出来ました。出席いただきました皆様には改めて御礼申し上げます。

さて、6月に建物としての工事は完了しましたが、引き渡しを受けた後で、実際に稼働するまでの2ヶ月の間に使用していくための様々な工事を行う必要がありました。

電子カルテ、院内ランなどのコンピューター関連、内線電話、PHS関連、医療用モニターなどの医療機器関連の配線やアンテナ工事などもこの間に行いました。

これらの工事と平行して、新本館棟用の物品や設備を購入し設置、事前に移設可能な医療機器、設備、物品などの移設などを行い、8月31日から9月2日の3日間を中心に全ての機器、物品の移設とともに患者さんの移動を行い9月3日の開棟を迎えることができました。

Ⅱ期工事は完了していますが、全てが完了したわけではありません。

今後、Ⅲ期工事である東西病棟の改修が完了し、新しい管理棟へ移転した後に、現在の管理棟、旧外来棟、手術棟などの建物を解体していき、整地して駐車場整備などの外構工事を進めていきます。

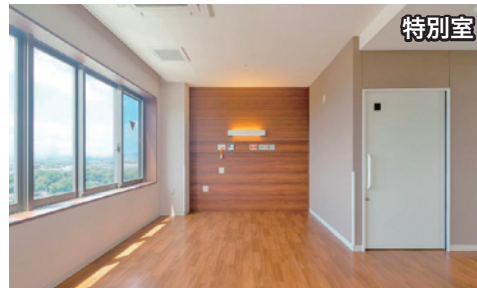
現在は正面玄関の風除室北側の自動ドアを入口としていますが、新本館棟の西側に正面玄関前のロータリーが出来、ロータリーに面した風除室南側の自動ドアが本来の正面玄関入口となり最終形の本館棟が完成となります。

約1年後の新病院の完成を楽しみにしていただきます。

本館棟外観



特別室



内覧会



第16回 健康フェスティバル

管理課長 堤内 俊一

第16回健康フェスティバルは、昨年が開催予定日に台風が接近し、やむなく中止となりましたので、改めて仕切り直しの開催となりました。

今回の開催にあたっては、まず開催場所の検討がありました。前回までは、体育館風の多目的ホールで、住民の方に最初に講演を聞いてもらい、その後そのホールと外来診察室の一部を利用し行ってきました。

しかし、当院の新本館棟が令和元年6月に完成し、9月に病棟と外来が移転するのに伴い、健康フェスティバルに利用していた旧外来診察室が使用できなくなるし、新本館棟のご披露も兼ねるとの理由で、新本館棟のどこかで行うことが早い時期に決まっていました。

そこで、実行委員会で開催場所について幾つかの案が出され検討の結果、講演会は2階の「大会議室」、催し物は、1階の「外来ホール」と決定しました。

その後は外来ホールに、どのように各催し物の開催場所を決め、またレイアウトするかを決めるのが大変苦慮しましたが、実行委員長の副院長先生が、「とりあえず、今回はこれでやってみよう。ダメなところは、来年改善すればいい。」とのことで、各催し物の開催場所等が決定しました。

開催場所は、医事前の待合ホールから、各外来診察室とその前の待合ホールを目いっぱい使うことになり、綿菓子とポップコーンコーナーのみ、建物外となりました。

開催前日の準備の際には、各催し物のレイアウトが、どううまくおさまるのか心配でしたが、一部の催し物の所では、そのチームの人たちが議論しながら、レイアウトを変更しながらも上手くおさめたり、待合室の椅子を上手く利用したりして、想像以上に上手くレイアウトができ、また、準備時間も

短時間で済んで、ほっと一安心でした。

開催当日は昨年と違い好天に恵まれ、素晴らしい健康フェスティバル日和となりました。

今回の健康フェスティバルの構成内容は、基本的には前回と同様で、最初に講演があり、それが終わった後に、催し物の開催となります。

開催当日は、午前8時45分に副院長の開会宣言があり、午前9時から受付開始で、午前10時から健康講座があり、石崎脳神経内科医長による「認知症の早期発見と治療について」、永廣認知症看護認定看護師による「生活の中で出来る認知症予防について」の講演がありました。この講演には、約100名の参加者があり、その中で皆さんに身振り手振りをしてもらうところもあり、一生懸命に参加され、講演も途中退席がないほど好評でした。

午前11時過ぎから、いよいよ催し物の開催となりました。毎回参加者が多くて殺到するので心配していた骨密度測定コーナーは、測定機器を2台準備したのと担当の放射線科の段取りの良さでスムーズにっていました。

その他のコーナーもおおむね上手くいっていました。

しかし、測定コーナーの血糖測定と肺年齢測定は、待っているときの椅子が少し足りなく、また待ち時間も長くなっていました。

また、一部のコーナーは、その場所が分かりにくく、参加者が少ないところもありました。このように改善すべき点は多々ありましたが、参加者からのアンケート結果では、それぞれのコーナーに対して9割の満足度でした。これも、ひとえに担当職員のお陰だと感謝いたします。

来年度以降も、もっと改善をして、たくさんの住民の皆さんに満足して頂く健康フェスティバルを継続していければと思います。



病棟・部門紹介 No.5

8階病棟のご紹介

8階病棟看護師長
西山 慎吾

8階病棟（旧東3病棟）は代謝内科、脳神経内科、整形外科、外科など全科の入院を受け入れている急性期の病棟です。具体的には、糖尿病の教育入院や脳出血・脳梗塞といった脳血管疾患、骨折や消化器疾患で手術をされない患者様など多岐にわたる治療を行っています。特殊な治療としてはt-PA治療（脳梗塞急性治療）、大腸ポリープ切除術等を積極的に行っています。また、糖尿病、高血圧症等の教育指導を医師、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士など他職種と連携を図りながら行い、外来でも透析予防外来として退院後の定期フォローに努めています。

近年、高齢化や独居の患者様が增加しており、生活の質に配慮した意思決定支援や入院時から退院後の生活を見据えた退院支援が重要視されています。患者様ひとりひとり、その人らしさを意識した看護を大切にして、安心・安全な入院生活を送っていただけるようスタッフ一同で努力しています。

9月に新病院へ移転となり、8階建ての最上階である8階に位置しております。病棟名も東3病棟から8階病棟に変更となりました。天気が良い日には、熊本駅近辺から阿蘇、パークドームといった素晴らしい景色を眺めることができ、大空の青色と木々の緑色を存分に感じることで、環境としてはこれ以上ないものとなりました。環境だけがよくなったと言われないように、患者様を第一に考えて支援できるようにスタッフ一同、尽力いたします。



開放型病院登録医紹介

よしもと小児科

院長／吉本 寿美

菊池郡菊陽町原水1156-2

TEL 096-233-2520 FAX 096-233-2521

診療内容／小児科、アレルギー科

診療時間／ 9:00～12:00（土曜日は9:00～13:00）
14:00～18:00

診 察 日	月	火	水	木	金	土	日
9時00分～12時00分	○	○	○	○	○	×	×
9時00分～13時00分	×	×	×	×	×	○	×
14時00分～18時00分	○	○	×	○	○	×	×

※火・木・金曜日の14:00～15:00は予防接種と乳児健診のみです。

よしもと小児科 吉本院長先生には、平成23年7月より当院開放型病院登録医として、多くの患者さまを紹介いただいております。

平成15年10月に菊陽町に開業され、地域の多くの患者さまの診療をされております。「受診の対価とは処方（薬）ではなく、診療そのものである」を基本方針に、子ども達のために何がいいのかということを最優先に考えて、より良い診療の提供に努められております。



病棟・部門紹介 No.6

放射線科のご紹介

診療放射線技師長
高橋 晃

放射線科は、放射線科医2名、診療放射線技師9名、放射線科助手2名、ドクタークラーク1名の、総勢14名のスタッフで業務に取り組んでおります。

当放射線科は、画像診断を担う部門としてCT装置、MRI装置、血管造影装置、マンモグラフィー装置、骨密度測定装置、ガンマカメラ装置（核医学検査）などのさまざまな医療機器を用いて、最適な画像診断が行えるよう新しい医療技術の情報収集や学術研究に努め、診療の質向上に取り組んでいます。また、患者様へは安心かつ安全に良質な検査を受けていただけるよう誠意を持って対応し、熊本再春医療センターで検査してよかったと満足いただけるような放射線科でありたいと、日々努力しております。

大型医療機器の共同利用ということで、検査依頼も積極的に受け入れるようにしており、毎年高い紹介率を上げることができております。これまでは、CT検査、MRI検査、核医学検査の予約を受け入れておりましたが9月に新しい骨密度測定装置が導入されて、こちらの検査も共同利用を受け入れることとなりました。

この場を借りまして、新しい骨密度測定装置のご紹介をさせていただきます。

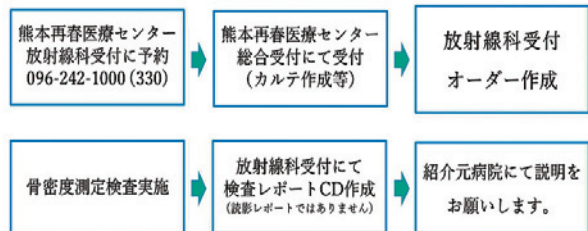
今回導入されたのは、GE社製全身用骨密度測定装置 Prodigy FUGA という装置で、腰椎・股関節・前腕部・全身骨等の色々な部位での骨密度測定が可能となっております。

この装置の特徴は、「腰椎＋股関節」の標準的な検査の測定を、1度の位置合わせで3分数十秒という高速撮像ができることです。位置合わせを変更することなく短い時間で検査が出来ますので、患者様には負担の少ない検査となっております。また、もう一つの特徴として、全身の体組成測定ができるということです。全身の体組成測定をすることで骨格筋量指数が計測出来、サルコペニアの診断にも寄与できるというものです。

最後に、骨密度測定装置共同利用のための資料を作成しましたので、ご紹介します。（右図）



骨密度測定装置の共同利用について



開放型病院登録医紹介

西山 医院

院長／西山 安浩

菊池市隈府中央通115-4

TEL 0968-25-2561 FAX 0968-25-4169

診療内容／内科、循環器内科、小児科、リハビリテーション科

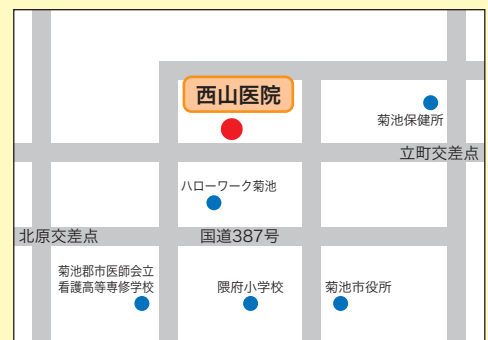
診療時間／ 8:30～12:00

13:30～18:30（土曜日は13:30～15:30）

診 察 日	月	火	水	木	金	土	日
8時30分～12時00分	○	○	○	○	○	○	×
13時30分～18時30分	○	○	○	×	○	×	×
13時30分～15時30分	×	×	×	×	×	○	×

西山医院 西山院長先生には、平成23年7月より当院開放型病院登録医として、多くの患者さまをご紹介いただいております。

菊池市隈府に開業され、地域の多くの患者さまの診療をされております。また、最新鋭のリハビリ機器を完備し、患者さまの運動能力や生活の質の改善にも力を注がれております。



第73回国立病院総合医学会

脳神経内科 栗崎 玲一

令和元年11月8～9日、愛知県名古屋市の名古屋国際会議場で開催された、第73回国立病院総合医学会に参加しました。本学会は、全国143の独立行政法人国立病院機構病院、5つの国立高度専門医療研究センター、および13の国立ハンセン病療養所等に勤務する全職種・全職員の資質の向上、医療の進歩発展、教育・研究の促進、相互親睦などを目的に毎年開催される学会です。各種会議等も同時に開催されたり、全職種が一堂に会することで国立病院機構全体のお祭りの雰囲気も包含したりする、大変ユニークな学会でもあります。今回は令和に年号が変わって初の開催であり、学会テーマは「令和における国立医療の挑戦～明日は変えられる～」でした。

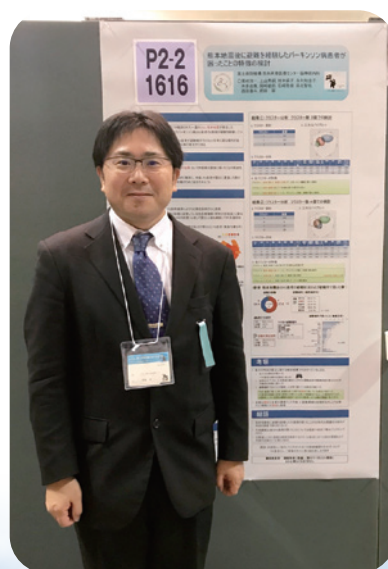
私自身も、国立病院機構（旧国立病院・国立療養所含む）に勤務し続けて19年、本学会に以前から何度となく参加させていただいておりますが、本学会の特徴を生かして、出来るだけ多職種協同での臨床研究の成果を発表するように毎年心がけております。

今回は「熊本地震後に避難を経験したパーキンソン病患者が困ったことの特徴の検討」という演題で、熊本県下9医療機関の脳神経内科医師と共同で

パーキンソン病患者さんを対象に行ったアンケート調査結果の発表を行いました。避難所での苦勞に焦点をあてた今回の研究では、自身本学会2度目となる「ベストポスター賞」をいただきました。今回の調査・研究にご協力いただきました全てのパーキンソン病患者さんとそのご家族、調査に協力いただいた各医療機関の脳神経内科の先生方に心より厚く御礼申し上げます。また同じ脳神経内科領域では、当院の栄養サポートチーム（NST）の筋萎縮性側索硬化症の栄養管理に関する検討結果についても共同演者として発表に加わらせていただきました。

毎回、本学会では特別講演も一つのハイライトですが、今回はオリンピック金メダリストで、「霊長類最強女子」とも称される吉田沙保里さんの講演を拝聴させていただく機会もございました。自分の「使命」を考えて行動する、という明確な人生目標のお話には、世界の大舞台を経験されたからこそその重みがあり、私の熊本再春医療センターにおける使命とは何か？という命題を自分自身の中で考えてみるよい契機になったと思います。

来年第74回の本学会は、新潟市で2020年10月16～17日に開催される予定です。出来るだけ多くの当院職員による日頃の診療に関する調査・研究成果の発表と、新潟での参集を期待したいと思います。



国立病院総合医学会の発表を終えて

看護師 渡辺 久美子

11月8、9日に、名古屋国際会議場で第73回国立病院総合医学会が行われました。今回、「国立病院機構における新たな骨・運動器・リウマチ治療に対する試み」をテーマとしたワークショップにおいて、「A病院のリウマチ科外来における患者指導の取り組み」との演題で、発表する機会をいただきました。

関節リウマチ(RA)は、多関節炎とそれに続く、骨、関節破壊を特徴とする自己免疫疾患です。治療の進歩に伴い、寛解を目指せるようになりましたが、完治することは難しく、長期的な治療が必要となります。RA治療では、患者様が疾患・治療、有害事象について理解し、有害事象を最小限としながら適切に治療を継続することができるよう支援することが重要です。

私は、日本リウマチ財団登録リウマチケア看護師を取得後、平成25年度よりRA治療の専任看護師として当院リウマチ科外来の診療に携わってきました。患者指導や、自己注射指導、体調不良時などの電話相談、病状の進行に伴う関節障害や高齢の患者様に対し、在宅支援の情報提供を行っています。また、RAは高額な治療となることが多いため、社会保障制度の情報を提供し、治療が継続できるよう支援しています。

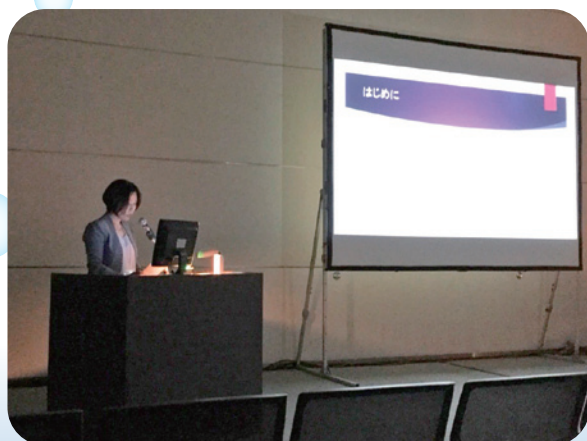
その中でも、患者指導は、RA治療による感染症などの致死的な有害事象を最小限にするために非常に重要です。患者様が有害事象発症時に早期に対応

できるよう説明を行います。一度に指導しても患者様はすべてを理解することは難しく、また忘れてしまうこともあるため、外来受診時に繰り返し指導を行っています。しかし、高齢者の場合は、感染症を起こしても発熱や呼吸器症状が出にくく、発見が遅れ重症化しやすい傾向にあります。外来受診時になるべく声をかけて、体調に異変を生じた際は軽微な症状でも遠慮なく電話相談するように指導しています。電話相談はリウマチケア看護師が対応しており、相談件数は1日平均2件ほど、多い時は3～4件あり、有害事象発症時の早期発見・早期治療につなげています。

自己注射指導では、患者様に応じてデバイスを選択し、必要に応じて家族への協力依頼や訪問看護導入も行いながら、自宅で不安なく実施できるまで指導を行っています。

今回、リウマチ科外来で行っているこれらの取り組みについて発表し、「ベスト口演賞」をいただきました。このセッションでは、当院のリウマチ専門医の森医師のメトトレキサート治療に関連した肝障害についての発表や、整形外科医師による人工骨頭置換術の術後合併症予防のための取り組みなど、素晴らしい発表がありましたが、その中で賞をいただけたことは、とても光栄なことでした。

RAの患者様は様々な苦痛や不安を抱えています。治療による有害事象だけではなく、精神的なケアや在宅支援も行いながら、外来看護師、多職種との連携し、これからもRAの患者様を支援していきたいと思っています。



『人工関節センター』を立ち上げました

副院長 緒方 宏臣

高齢化社会の進展に伴い、関節の老化に伴う疾患、変形性関節症の患者さんも増加しています。初期の関節症では運動療法やお薬で対処可能ですが、進行した関節症では痛みや可動域の制限のために日常生活の制限が高度となり、要介護の原因ともなります。いつまでも自分の足で歩きたい、より活動的な生活を送りたい、と望まれる方は人工関節置換術の適応となります。人工関節手術は年々増加しており、2018年における国内での年間手術件数は人工膝関節置換術(TKA)約11万件、人工股関節置換術(THA)約10万件で、毎年右肩上がりで増加しています(日本人工関節学会レジストリーより)。人工関節手術の成績は比較的安定していますが、良好な結果を得るためには精度の高い手術が不可欠です。当院では骨性アライメントと靱帯バランスを高度に両立する独創的な手術方法を開発するとともに、術後鎮痛法にも工夫を加えて、非常に高い術後満足度を得ています。

2019年9月新本館棟開院にあわせ、『人工関節センター』を立ち上げました。より良い術後成績、長期の安定した結果を目指し、専門医、リハビリテーション部、看護部、薬剤部がチーム医療を行ってまいります。関節の痛みにてお困りの時は当センターにご相談ください。

対象疾患

変形性膝関節症、変形性股関節症、
変形性肩関節症などの変性疾患、
関節リウマチ

センター長	緒方 宏臣 (主に膝関節)
副センター長	山下 武士 (主に肩関節)
副センター長	川谷 洋右 (主に股関節)
医師	今村 悠哉
医師	福田 雅俊

採用・異動職員からのごあいさつ

医師

統括診療部 小児科医師
師井 裕記朗

本年10月より小児科に赴任いたしました師井 裕記朗と申します。

初期研修を2年間熊本中央病院で行い、平成27年4月に熊本大学小児科に入局いたしました。入局後は、熊本中央病院に勤務後、平成27年10月より平成28年3月まで当院で勤務させていただきました。その後、福田病院新生児科、人吉医療センター、熊本地域医療センターで勤務させていただき、この度、3年ぶりに当院で勤務させていただくことになりました。

緊張と不安もありますが、心強い先生方やメディカルの方々に助けていただきながら、診療を行っています。メディカルの方々はとても優しく、たくさん声をかけてくださり、とても働きやすい環境だと感じております。

まだまだ日々勉強の毎日ですが、熊本の小児医療に携われることに感謝し、精一杯頑張ります。短い間ではございますが、よろしくお願い申し上げます。

統括診療部 小児科医師
米田 成美

10月より当院に着任いたしました米田 成美と申します。熊本県八代市出身、大分大学を卒業後、熊本中央病院での初期臨床研修を経て、今年度4月から熊本大学小児科医局に入局し、9月までは熊本医療センターに勤務しておりました。熊本再春医療センターに勤務し始めて約2ヶ月が経ち、ようやく広くて新しい建物の構造や通勤に慣れてきました。最近建物内で迷子になり、スタッフの方々に道を尋ねることがなくなりました。また、私は車通勤での渋滞が苦手で初めは続けられるか心配でしたが、比較的渋滞にくい道を教えてもらい、今では心穏やかに通勤することができています。先生方もスタッフの皆様もとても温かく、充実した日々を送ることができています。不慣れな点が多く皆様にはご迷惑をおかけすることが多々あるかとは思いますが、少しでもお役に立てるよう精一杯努力してまいります。よろしくお願い申し上げます。